

# 発展探究β発表会

期 間 平成30年6月21日（金）5，6限目  
場 所 本校至誠ホール  
参加者 理数科学科3年生徒55名および指導の先生方  
指導助言者及び評価協力者  
富山大学和漢医薬学総合研究所 教授 早川 芳弘 氏  
同大学助教、研究員、大学院生10名



理数科学科2年次に「SSH発展探究α」で取り組んだ課題研究について、3年次では英語による発表の形で、「発展探究β発表会」が行われた。各ゼミの担当者がポスターを用いて発表を行い、その後、聞き手からの質問に答えるというポスターセッションの形式で進められた。この会の特筆すべき点は、「ポスターに書かれている内容や、発表時及び質問時に使用する言語が英語である」という点だ。実際、今回が各ゼミ

の探究内容を発表する3回目の機会であったが、「使用言語が違う」ことがいつもとは違った緊張感や必死さを生み出していた。

この会の開催に当たり、事前指導として富山大学から3名の研究員に来校してもらい、発表内容や発表方法について指導助言をもらった。また、当日は富山大学和漢医薬学総合研究所病態生化学分野教授の早川芳弘先生をはじめ、同大学の国際色豊かな研究員、大学院生の方に参観してもらい、質問や助言をいただき、ゼミに対する評価もいただいた。実際



に科学研究に携わる専門の研究者から意見や感想を述べてもらい、緊張しながらも充実した発表会となった。

司会進行、開会の挨拶、そして閉会の挨拶まで、すべて理数科学科3年生徒によって行われたこの発表会は、3年間の探究活動の成果の集大成として、大成功の行事となった。1年次の「SSH基幹探究」、2年次の「SSH発展探究α」、3年次の「SSH



発展探究β」を通して、生徒たちは多様な科目での問題設定の仕方や調査方法、効果的な情報の見せ方等を学んだ。またその過程ですべてのゼミがそれぞれの困難にも直面した。どのような仮説が自分たちのゼミに一番適切なのか迷い途方に暮れ、最善の実験方法や実験の条件をどうすべきかについて班員と意見がすれ違い、自分の考えをはっきりと相手に伝えるための方法を模索する……。ここに挙げたのはほんの一例であるが、探究活動には多くのつらいことが伴った。しかし、それ以上に楽しく充実した学びの場ともなった。普段の授業よりも積極的に意見交換し、自らの既存の知識と課題探究の過程で学び得た知識を融合させて進んでいくことが要求されるという、この教科の特性こそがその要因であろう。また、このことは私たちが将来必要とされる能力であり、今回の発表会は、これから大学等で専門の研究に取り組んでいく自分たちにとって、非常に有意義あるスタートとなったのだと、生徒全員が再確認することができた。



生徒による英語・日本語の司会



開会の挨拶をする生徒代表



閉会の挨拶をする生徒代表



富山大学早川先生による講評